

## 令和5年度 第4回 富谷市協働のまちづくり推進審議会 会議録

日 時：令和5年12月18日（月） 10時00分～11時50分

場 所：富谷市学校給食センター 研修室

参加者：富谷市協働のまちづくり推進審議会 出席委員10名 欠席委員0名

：富谷市 1名

：事務局 5名

### 1 開会（司会：市民協働課 課長）

### 2 会長挨拶

皆様お忙しいところ協働のまちづくり推進審議会にご出席いただき、ありがとうございます。文言を作るというのは難しい中で、委員の皆様には個別にご相談させていただきましたが、温かく対応していただきありがとうございました。富谷の協働のまちづくりということですが、世代、性別を問わず凄く活発になっていると思います。その現状を踏まえまして、富谷らしい提案、提言とは何だろうということで、今日も議論を深めていければと思っております。前回の議論では、やはり生煮えの状態でするのは違うのではないかとということで、事務局の皆様にはなかなか当初の予定通り進まずご迷惑をお掛けしているかとは思いますが、今日もしっかりと話し合いました。この提案がただ単に発出するだけではなくて、しっかりとその後の協働のまちづくりの土台になるように取り組んでいきたいと思っておりますので、今日もよろしくお願いいたします。

### 3 市長挨拶

皆さんおはようございます。本日は令和5年度第4回富谷市協働のまちづくり推進審議会にご出席いただきましてありがとうございます。そしてまた、日頃から佐々木会長を始めとして委員の皆様には本当に連日、お会いしない日がないくらい皆様それぞれの場面で一緒させていただいております。市民活動は勿論ですが日頃からいろんな場面で市政全般に対しご指導ご支援ご協力賜っておりますこと、改めて心から御礼申し上げます。

協働のまちづくり推進審議会においては、令和2年度の協働のガイドライン策定から審議いただき、令和3、4年度には公益的な活動への支援方針について答申をいただいていたところでございます。今年度につきましては更に踏み込み、具体的な支援の在り方についてということで、6月に諮問させていただき、これまで3回の審議会において、委員の皆様には忌憚のないご意見を頂戴しております。私も答申をいただくのを大変楽しみにしているところでございますが、全5回の開催を予定しておりますので、本日、そして年明けの審議会で最終の取りまとめをいただくという形で、いよいよ終盤に差し掛かってくるかと思っておりますので、本日もこれまでの議論を踏まえて整理をしていただき、最終的な答申に向けてお力添えいただければと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

### 4 審議事項

#### 市民の公益的な活動への支援方針について

##### （佐々木会長）

それでは、審議に入る前に委員の皆様にお諮りいたします。会議の傍聴及び富谷市情報公開条例に基づく開示請求があった場合の本審議会と会議の資料及び会議録の公開につきまして、ご了解をいただけますでしょうか。

※「異議なし」の声あり

それでは委員の皆様からご了解をいただきましたので、会議の傍聴及び会議録等の開示請求があった場合は公開することといたします。ただし、個人に関する情報等が含まれる場合は、富谷市情報公開条例第7条に基づき、不開示とすることを申し添えます。

それでは本日の傍聴人について、事務局から報告をお願いします。

**(事務局 坂爪課長)**

傍聴の申し込みはございません。

**(佐々木会長)**

それでは審議会の途中で傍聴希望があった場合、傍聴を許可することといたします。

また、本審議会の会議資料及び会議録につきましては、委員皆様に内容を確認いただきました後に公開させていただきますので、ご了承願います。

なお、個人に関する情報等が含まれる場合は、富谷市情報公開条例第7条に基づき不開示とすることを申し添えます。

それでは審議に入ります。

今日は公益的な活動への支援ということについて、議題としていきたいと思えます。

それでは事務局より資料の説明をお願いします。

**(事務局 瀧田課長補佐)**

それでは私から資料の内容について説明申し上げます。

市民の公益的な活動への具体的な支援として、前回の審議会において委員の皆さまよりご意見をいただき加筆したものが資料1、過日実施した第2回とみやわくわくミーティングにおいて参加者より出されたご意見を資料1と対照させたものが資料2となっております。

はじめに資料1について説明申し上げます。

10月30日に開催した第3回協働のまちづくり推進審議会において、委員の皆様から頂いたご意見、これまで審議会において策定した「わくわく つながる わたしたちのまちづくり - 富谷の協働ガイドライン-」及び昨年度の支援方針答申の文言を反映したものとなっております。

前段の1段目導入部分「市民の公益的な活動（公共の利益につながる活動）は、市民の主体的な参加に支えられています。」から6行目までの「富谷市ならではのものを創造していきます。」としております部分につきましては、昨年度提言を頂戴いたしました「公益的な活動への支援に関する提言」における「市民の公益的な活動について」の目指すべき活動の姿として「市民の公益的な活動の主たる目的は、自分たちの手で、住み続けたい魅力ある地域を作っていくこと」と、第3回審議会において佐々木会長からのいただいた、市民、市及び多様なセクターのコラボレーションによる富谷市ならではの市民協働の創造についてのご意見を基に構成いたしました。

次に「整備の実現を目指すこと」といたしまして、「○地域のために活動している個人・団体の把握・登録・ネットワーク化」、「○活動の様子や活動している人の声、活動に役立つ情報の発信」、「○施設の活用や設備等の利用ガイドの作成、気軽に参加できる機会の創出」と3つ項目立てを行い、それぞれの事項について、市民または市、市民と市及び多様なセクターがそれぞれに、または協働してできることを区分して標記しておりますが、平岡委員、日諸委

員、増田委員、北野澤委員より市民ができることが最初にあつて、それを市がどうカバーできるかという観点から表記すべきとのご意見がございましたことから、前回ご提示申し上げたものから表記順を変更しております。

初めに「市民が取り組むこと」といたしまして、「地域をさらに良くしたい人、知識や経験を活かしサポートする人など、世代や立場を超えた多様な人々がそれぞれに、又は力を合わせるにより培われる地域をより良くしていこうとする地域力の向上」、「活動する人と人とが関わり合うことで「口コミ」により伝えていく情報発信」を項目として掲げております。

次に「市が取り組むこと」といたしまして、佐々木会長、佐藤怜美委員よりご意見をいただいた「既に市民協働課や社会福祉協議会等、多様なセクターにおいて整備している登録制度のデータベース化及びネットワーク化」、佐伯委員よりご意見をいただいた「活動している個人・団体の活動内容について情報収集、把握、登録、活動紹介」、「市民が身近な施設を有効活用するために必要な環境の整備」、「活動に便利な設備の設置・利用ガイドの整備」、「活動の活性化、充実化を促す助成金や活動支援制度の情報提供」を項目として掲げております。

最後に、「市民と市、多様なセクターがそれぞれに、または協働して取り組むこと」といたしまして、平岡委員、曾根委員よりご意見をいただいた「活動内容を広く周知するとともに活動にあたっての有益な情報の提供」、佐伯委員よりご意見をいただいた「講座やイベントの開催など、気軽に参加できる機会の創出」、「情報収集し、広報、ホームページ、SNS 等による情報発信」、「ちらしなどによる活動紹介や入会募集案内の発信」、佐藤政悦委員よりご意見をいただいた「楽しくつながり広がる「輪づくり」の交流や対話の機会及び協働の機会の創出」を項目として掲げております。

続きまして資料2について説明申し上げます。

1月29日に市民活動に携わっていらっしゃる方々を対象として開催した、令和5年度第2回とみやわくわくミーティングにおいて、参加者より出されたご意見を先ほど説明申し上げた資料1の「整備の実現を目指すこと」の項目と対照させたものとなっております。

「支援を求める人と支援したい人が結びつくことができるようなサポートが欲しい」というご意見に対応して、「地域のために活動している個人・団体の把握・登録・ネットワーク化」。「活動をしたいが活動をするために何をしたらいいかわからない」、「活動をするにあたっていろいろな情報を集めるには時間がかかる」、「活動を知ってもらうために活動内容を行政に取り上げてもらいたい」というご意見に対応して、「活動の様子や活動している人の声、活動に役立つ情報の発信」。「活動をするにあたって活動場所・活動資金の確保が難しい」というご意見に対応して、「施設の活用や設備等の利用ガイドの作成、気軽に参加できる機会の創出」となっております。

内容や見せ方、表現の仕方やイメージ図などにつきまして、様々な視点からご意見を頂戴できればと存じます。どうぞよろしく願いいたします。

#### (佐々木会長)

ありがとうございました。

只今の事務局の説明を受けて、皆さんの意見を頂戴していきたいと思っております。

私も事前に資料を頂いてはいたのですが、改めてこの場で読むと若干気になるところもあるのですが、当初のものと比べるとやはり皆さんの言葉、あるいは皆さんの活動している範囲での提案になってきたのではないかと感じております。

基本的には資料1が最終的な答申になってくるということですよ。

#### (事務局 瀧田課長補佐)

はい。

### (佐々木会長)

決してボリュームがあるものではないのですが、元々ガイドラインを作ったときから、敢えて分厚いものを作って貫禄を出すということではなくて、学生が読んでもわかるものにしようということでしたので、1枚ものですけど私としては非常にわかりやすくまとまっているのではないかと思います。

また、皆さんからは一言ずつは頂きたいと思うのですが、今回は順番で話すというよりも最後の答申に向けて具体的な文言の調整、あるいは追加ということになってきますので、この段階で、ここはこうした方がいいのではないかという意見等ありましたら、ご発言いただければと思います。

### (北野澤委員)

読んだときに、全体の印象としてまとまってきたような感じがして、ありがたく感じております。

2点程ありまして、まず1点目は資料1の「上記について、それぞれの実施主体（市民または市、市民と市及び多様なセクターがそれぞれに、または協働して）が取り組むこと」の部分の接続詞が多すぎる気がします。この下のところに「市民が取り組むこと」、「市が取り組むこと」、「市民と市、多様なセクターがそれぞれに、または協働して取り組むこと」と3項目立てられているのでそこまで読めば分かるかのですが、ここの括弧書きを例えば「①市民 ②市 ③市民と市及び多様なセクター」というように分けないと、どこまでが1つのセンテンスなのか最初に読んだときに理解しづらいと思います。

2点目は、2回目の審議会でお話しした内容と重複するのですが、年金事務所に行ったときには社会保険労務士の方、税務署では税理士の方と、事務職員の方だけでなくそれぞれのプロフェッショナルにも対応していただいたという話をさせていただいたと思うのですが、可能かどうかは分かりませんが、市の取り組みの中にそういった相談窓口のようなものを設置できないかと考えていました。市の職員やOB、シルバー人材センターさんからの派遣などで、毎日では難しくても月1開催の相談会のようなものがあると、市民活動を始めようとしたときに敷居が低く感じられるなと思いました。また、その際に提供していただける場所とか、こんなお金の使い方もありますよと説明していただけると、より取り組みやすくなるのかなと思います。

### (佐々木会長)

最初のご意見は全くその通りで、簡単に言うと市民、市、多様なセクターがそれぞれにということですね。

2つ目のご意見については、確かに資料1「市が取り組むこと」の内容が既に活動している団体、あるいは個人に対するものが多い中で、ファーストステップのところはなくて。これから何か始めようと考えている人に向けて相談窓口、あるいは月1回の相談会みたいなものは有効なのかなと思いました。私はそのまま取り入れたほうが良いと思います。

委員の皆様、他にご意見はございますでしょうか。

### (増田委員)

私も本当に、最初に頂いた資料は色々な自治体のものを参考にして作ったということだったんですけども、あれがもし一般的なものなのだとすれば、今の資料は本当に富谷市らしくて、今すぐそれぞれが取り組めることが盛り込まれていると感じています。私はそれが凄く大事だと思っていて、まずこれを作って、そして実際にここに書いてあるものをそれぞれが一生懸命やってみて、その上で更に何ができるかと深まっていくものだと思います。最初からもしかしたらできないかもしれないものを盛り込むよりは、やれるなと私たちが感じられるものに

なったということは、とても素晴らしいなと思って読ませていただきました。

でき得るならば、最後の図をパッと見たときに、もう少し何を言いたいか伝わるように、中身を読んだとき更に、そういうことね、とわかるようなものになると良いかと思います。例えば、土台になっている市の部分に何か言葉を加えるとか、市民活動と地域活動を矢印で結んでいるのも、多様なセクターがつなぐということなのか、いまいちイメージがパッと掴みにくくて残念な感じがするので。そこは私もどうすればいいのか考えたのですが、今日までに良いものが思いつかなかったもので、皆さんにご意見いただきながらこの図の精度を上げることができると良いのかなと思います。

### (佐々木会長)

前回の審議会で私が描いた図なのですが、やはり言葉だけだと伝わりづらいところもありましてあのような形で表しました。先程、北野澤委員よりご意見いただいた「それぞれの実施主体（市民または市、市民と市及び多様なセクターがそれぞれに、または協働して）が取り組むこと」の部分のイメージになってくるかと思うのですが、これを置く順番を変えて、「市民が取り組むこと」の前の段階に入れてもらった方が良いかと思います。市はそこで市民の皆さんが生き生きと活動していく支えをする、土台づくりをするということで。市民と言っても富谷市に住んでいる人、富谷市を活動の場として選んでいる人、あるいは富谷市のファンとか、色んな市民の方がいらっしゃいますので、そういう方々が領域として、多様なセクターというのは真ん中に入ってくるかと思うのですが、それで良いのかどうか。それとも市民活動と地域活動だけにして、多様なセクターが関わるという風にした方が良いのかもしませんが、やはりどちらかというところ市民活動というところがテーマなんです。地域活動という限定的なエリアで行う縛りのある活動なのですが、ここでは、特に佐藤政悦委員から意見が出ていますけれども、農村部と団地部をつなぐとか、世代間をつなぐとか、そういった横のつながりが重要だという意見が出ております。

今の図では横軸だけ出ているわけですが、縦軸を入れるとすれば、「市民力、地域力の向上を目指す」というような言葉になるかと思います。イメージ図があって、そこで市民、市が、そして多様なセクターが連携して取り組む、協働して取り組むということが描かれると、その下の3つの項目立てされた内容が入ってきやすくなるかと思いますので、次回までに図の解像度を上げたいと思います。

### (平岡委員)

今佐々木会長が仰ったことと同じことを考えていました。「市民が取り組むこと」の前に図があって、その後に「市民が取り組むこと」、「市が取り組むこと」と続いて具体的な内容を補完できる流れにした方が、読んだときにわかりやすいと思います。

あと、先程相談窓口を設置するという話が出ましたが、既に市民協働課で相談窓口を置いていますので、そういうものも大いにここで出していければ良いのではないかと思います。

### (佐々木会長)

そうですね、そういった意味では案外この図がポイントになってきます。「市民が取り組むこと」、「市が取り組むこと」のように3つ項目立てされているので、記載する上で便宜上3項目に分けて書いていますが、市民は市民、市は市、多様なセクターは多様なセクターでそれぞれ別個に取り組んでいくのではなくて、この3つはあくまでつながっているものであることをこの図で表す必要があると思いますし、それが協働だと思います。

### (北野澤委員)

「わくわく つながる わたしたちのまちづくり -富谷の協働ガイドライン-」の6ページにある協働の図や「とみやインパクト」という言葉も、今会長が仰ったようなイメージでつくられているのではないかと思うのですが、いかがですか。

### (佐々木会長)

それらも委員の皆さんと本当に苦勞してつくりました。

最近では、例えばNPO 団体が上場するというような動きも出てきているんですね。もちろん上場することが全てではなくて、地道な活動が大事なんですけれども、震災後に「東北食べる通信」という取り組みを始めた団体が花巻にあるのですが、社名を変えて先月上場しまして、それがいわゆるインパクト NPO と言われているものになります。一般的に会社であれば売上をいくらにするとか、この活動を何回するといった KPI の設定がされるのですが、それに対して交流人口、SNS の「いいね」をいくつにするとか、金額に直接結びつかないような NPO 的活動、そういったものをインパクト指標と言います。ガイドラインを作成した当時それが結構話題になっていて、その流れも盛り込んで「とみやインパクト」という言葉を載せたわけなのですが、今回つくる図ももっとユーモアを持って、これまでのものを上手く盛り込んだり、多様なセクターの部分についてもわかりやすくなるようにしたいと思います。

「とみやインパクト」も社会に広まるにはもう少し時間がかかると思いますが、もう2年程前にガイドラインは公表していますので、今後上手く活用していければ良いと思います。その活動で何を目的や目標にしていくかというインパクトによって地域力や市民力、団体力が上っていくということが言われていて、それが凄く上手くいった事例として先程の、上場してそのインパクトを打ち出した会社が注目されているということになります。頭のこんがらがる話をして申し訳ないのですが、社会は今、そういう流れになってきています。

### (北野澤委員)

まさにこの提案が絵に描いた餅ではなくて、ちゃんと実効性のあるものにしていくということであれば、今会長が仰られたことに納得というか、現実的になっていくかなと思います。

### (佐々木会長)

市民活動の場合、そこを大事にするのは譲れない部分だと思います。村上委員が代表をされている NPO 法人 SCR も「S」、「C」、「R」にそれぞれ思いが込められていると思うのですが、それがいわゆるインパクトなんですよ。そこがしっかり伝わるようになると参加したいという人が出てくるんだと思うんですが、どう伝えるかという最初のところが情熱だけではなかなか難しい。そういう富谷インパクトみたいなものを指標として出したような事例集を作っていくというのは良い手だと思います。

### (佐藤政悦委員)

農村部だけが人が少なくなったりしていて、この先どうしていったら良いのかという問題を抱えていると思っていたんですが、先日行政区長会の集まりに参加した際に、団地部でも出て行く人がいっぱいいるという話を聞きました。そういった中で、これまでの審議会でも話していますが、農村部は農村部の方でだけ活動するのではなく、団地部の方々ともつながりをもって色々な活動をしたいと思っています。そういったつながりの中で、これからの富谷をどうしていきたいとか、話したり行動できたら良いなという思いはあるのですが、そこから一歩踏み出せなくてなかなか実現できずにいる。例えば、富谷の土は田んぼには向いているんですが果物や野菜作りには向いていなくて、私は新しく土づくりをしてブドウを育てようとしているん

ですけれど、一緒にやりたいっていう方や他にもアイデアを出してくれるような方も結構出てきていて、やはりそういったつながりがもっと広がっていけば、富谷の地域力や市民力も更に向上していくと思うので、興味を持ってもらえる人に情報が伝わるような取り組みという部分も必要なのかなと思います。

#### (佐々木会長)

富谷市の人口は5万人いるわけですから、今のような形で、もっと具体的に人を取込むようなことを打ち出しても良いのではないかというご意見は、すごく重要だと思います。ネットワーク化すれば何とかなるというようなところに落ちてきていますけれども、もう一步踏み込んで、活動とそれに興味をもってもらえる人が強力につながるような仕掛けということを、強調して盛り込んでいければ良いのかなと思います。

#### (佐藤政悦委員)

先程ブドウを育てようとしているという話をしましたが、ワインを富谷で作ろうと考えていて。関東辺りはブドウの栽培に向けた土壌があるので名産地として有名ですが、岩手でも作っているところがあって、見に行ったら土質が富谷と似ていたんです。それで富谷でもできないかなと思っているんですが、こういった活動の輪が広がっていけばワインだけでなく色々な形で新しいものが出てくると思うので、何とか沢山のの人に知ってもらえればという思いでいます。

#### (佐々木会長)

そうですね。今のようなお話が、やはりきちんと伝わるということが大事で。既に活動されている方に加えて更にその輪が広がることで、活動が楽になると言ったら変ですけど、楽になるということは楽しくなるということですので。楽しく活動できるように担い手を広げていくような仕組みを、富谷は次のステージとして強力につくっていくということは大事だと思います。

また、一步踏み出し切れない方という話もいただきましたが、そういう方は結構いると思うんですよね。その地域貢献、地域活動に踏み出す強力な後押しになる何かというのは、お金ではなくて、私は事例集とか映像のような媒体なのかと思っているのですが、その辺も含めて盛り込んでいきたいと思います。

#### (曾根委員)

私からは3点程ありまして、1点目は資料1の1ページ目、「市民が取り組むこと」の1文目の後半に「力を合わせるにより培われる地域をより良くしていこうとする地域力の向上」とあるんですが、ここが理解しづらいなと感じて。このままの文言にするのならば「地域を、より良くしていこうとする」にするとか、表現を変えても良いのかと思います。

2点目は2ページ目の「市民と市、多様なセクターがそれぞれに、または協働して取り組むこと」の部分なんですが、ここは全体的に内容をもう少しまとめられるのかなと思いました。例えば、1つ目に「活動内容を広く周知するとともに」とあるんですが、4つ目の「ちらしなどによる活動紹介や入会募集案内の発信」というのも周知に入るかと思うんですよね。なので、ここはもっと簡潔にまとめられるのかなと感じました。

3つ目は、最後の「楽しくつながり広がる「輪づくり」の交流や」に関してはおそらく、佐藤政悦委員や会長が仰ったようなマッチングみたいなイベントというか、そういったものも含まれるのかと思うんですけれど、それでは2つ目の「講座やイベントの開催など」と書いてあるのは具体的にどんなものなのかが私にはわからなくて、ここの違いが気になりました。

4つ目は「情報収集し、広報、ホームページ、SNS等による情報発信」の部分は何に対する情報収集を指すのかというところで、この辺も全体的に内容が重複しているような印象を受けました。

#### (佐々木会長)

1点目、「市民が取り組むこと」の文言についてですが、読みやすくするということは大事ですし、市民が主体となって取り組むことなので、「市民力」のような言葉も入れていって良いのかと思います。

2点目に関しては北野澤委員からもご意見をいただきましたが、フレーズが長くてややこしいので、「多様なセクターが協働して取り組むこと」とすると、下に続く内容も整理しやすいと思います。特に多様なセクターと言った場合には、個人も含めて色んな人が入ってきますので、佐藤政悦委員からのお話はここに反映できると思います。市民が取り組むことと言うと何となく、今、顔が見える市民のリーダーのようなイメージがあって、市は協働課というイメージがあるんですが、そこに括れない人たちをここにに入れてしまう。ここで今のような、やはり担い手は必要ですので、私もやりたいなと思っている人にこういったことを生み出してもらうような強力な取り組みを「多様なセクターが協働して取り組むこと」に入れると、基本的にはそれが情報発信とネットワークの場づくりになっていると思いますので、その辺りを改めて整理したいと思います。

#### (日諸委員)

私は資料1を読ませていただいて、「整備の実現を目指すこと」の上の3行が凄く良いと思いました。

先日、音楽療法のワークショップを開催した方がいて、私は人集めのお手伝いをしたのですが、その時に凄く感じたことが、やはり情報発信というのは、その対象者がSNSやホームページをご覧になる方であれば、それを見ていただいて、ということができるのですが、例えばお年寄りが対象だとなかなかそういったものをご覧になる方は少なく、紙媒体でしか情報を知り得なかったという声を聞きました。情報発信と言うと、SNSやホームページをやられている方はもうそれが当たり前ですが、そうでない方が対象のときはやはり別の媒体を考えないと情報が伝わらないんだなということを変更して思いました。

「最初の一步を踏み出しやすくするために」、「これから先も楽しくつながり、自立して活動を続けていけるように」というこの3行にもう全部が詰まっているような気がします。私がお手伝いさせていただいたときは、まず中心になって人を集められる方にお声を掛けて規定人数以上集めることができました。私は、人と人をつなげるお手伝いができたら、それだけでも十分協働のまちづくりにも貢献していると思います。せっかくたくさん知識や経験を持っているのに、最初の一步を踏み出すことができなくていらっしゃる方もいらっしゃいます。その一步を踏み出してやってみたら大成功で、それが本当にその先も楽しくつながって、その方が自立して活動できるようなお手伝いをしてあげられたらなど、本当に心から思いました。

そのためにはやはり参加者と実施者の双方が継続してできるような体制づくりというか、その支援、あとは場所の提供とか参加費等色々なことがあると思うのですが、そういったところをひとつひとつお手伝いできれば地道に広がって、その下の「整備の実現を目指すこと」につながっていくのだと思います。

実際に活動をされている方はパワーもありますし熱量も凄いのですが、それを受け止める人とマッチングするのはなかなか難しいということを実感しています。何とかしてあげたいという思いで、人と人をつないであげることが最大限自分にできることだったのでそのようなお手伝いをしました。これを皆でやれば、皆さん素晴らしいものを持っていらっしゃるの、点と

点がつながって協働のまちづくりの完成形になるのではないかと思います。

#### (佐々木会長)

まさに協働のまちづくりの完成形を目指すということだと思うのですが、私もそれだと思います。行政的な相談窓口を設置するのは日本の特徴で、海外ではそういった行政の機能から突き出てコーディネーターを置くというのはいずれもなく、大体その分野のリーダーみたいな方々、皆さんのような方々がボランティアでアドバイスや中間支援をすることが多いんです。おそらくそれが完成形に近づいていくのだと思います。ボランティアと言っても単なるボランティアではなくて、ちゃんと自分たちの活動に返ってくるようにマネジメントしているんですが、富谷に来ればこういう人たちがいるから、あの人に相談に行ったら良いよという形に最終的に近づいていくのが、完成形なのだと思います。

ただ、その前段階として、日本では平成に入った頃、行政が委託して市民活動センターをつくり、そこに相談に行ってもらおうようにしてNPOを増やしてきたという経緯があります。それはそれで結構成功したのですが、問題もあります。最初の頃はコーディネーターの方が知識があるので良いんですけど、段々と団体のリーダーの方も見識やネットワークが増えていくので、逆転してしまいました。ですので、活動団体のリーダーのような方で、聞いたら相談に乗ってもらえるかもしれないよ、という方が何名かいるような環境になると、完成形に近づいてくるのではないかと思います。

#### (佐藤政悦委員)

何か始めてみようと思う人がいても、どこに何を相談しに行けば良いのか、全く分からないという現状があるかと思います。

#### (佐々木会長)

何かしたいと思っている人を「相談に来た人」と捉えるのではなくて、富谷と一緒に良くしていこうとしている仲間だと捉えることが必要なんですよ。例えば、相談窓口があってもそこで対応するのは同じ人なので、万能な人はいませんしその人の趣味趣向にどうしても寄ってしまって、相談に行ったら駄目だったということもあります。そこでキーワードになってくるのが中間支援機能なんですけど、その在り方も、行政が設置する窓口もありますし、相談に乗れるような活動団体のリーダーのリストをつくってもいいと思います。先程もご紹介しましたが、海外では行政が窓口を設置していない場合が多いので、そのようになっているのかと思います。

#### (増田委員)

曽根委員の、「市民と市、多様なセクターがそれぞれに、または協働して取り組むこと」という表現が分かりづらく、情報収集というのは何の情報を目指すのかという意見を聞いて思ったのですが、おそらく4つ目の「暮らしなどによる活動紹介」というのは市民が取り組むこととしてここに書かれていると思うんですよ。項目が「それぞれに、または協働して」となっているので、市民と市そして多様なセクターそれぞれ別個に行うことも、協働して行うことも、ここに混ざった状態で入れられていると思うので、別個に取り組むことについてはそれぞれの項目に集約した方が良くと思います。そして3項目は「協働して」と言うよりも、今会長が仰ったように、中間支援という言葉を使うべきなのかは分かりませんが、市民と市がそれぞれ取り組んでいることを上手くつなげるような、機能するようにする仕組みというように分けると良いのかなと思います。

そして、それがもう少し私達の中で、具体的なものが描けるようになってきたときに、この

図も完成するのかなという気がしていて。市が縁の下の力持ちになって、下支えするということはベースに置いていただいて、その上を豊かに、見える化するというのが良いのかと思います。それがわかるような形に「市民が取り組むこと」、「市が取り組むこと」、そして3項目目を組み込んでいければと感じます。

#### (佐々木会長)

曾根委員からもご意見をいただきましたが、3項目目の内容は、ほとんど市民が取り組むことではないかというお話しでした。3項目目は、どうすればこの協働が本当にできるのかということに絞って書いていくというのも1つの方法なのかと思います。そこで出てくるのがどうしても中間支援という言葉になってしまいますが、やはりサポート機能になってくるのだと思います。それがかつては箱物を設置して解決ということだった訳なんです、NPO法が施行されてからも20年経ち、それだけで解決する問題だけではないと言いますか、既に箱物はあるので、ソフトの部分で書いていく段階にあるということになります。

今のような、誰かの負担にならないような形でスムーズにマッチングができて、例えば富谷市外に住んでいる人も富谷に来れば何とかかなると思ってもらえるような体制をつくっていくことなのかと思います。

それはもう活動をされている方と、これから始めようとしている方、個々の人間をつなげていくという形なんだと思いますが、つないだらそれはそれで負担になりますので、負担にならないように戻してもらえようような構造の、二重の中間支援のようなものを構築していくのが良いと思います。

#### (平岡委員)

「市民が取り組むこと」、「市が取り組むこと」という項目立てをされているので、3項目目は、素直に「市民と市が取り組むこと」とした方がかえってわかりやすいのかなと思います。そのようにしなくても構わないのですが、私はそういうニュアンスなのかなと思って受けとめていました。

それで、やはり私たちも行政や社協から色々な取り組みで支援をいただいて、それを実行して終わりにならないように、それをまた皆につなげていく。輪づくりがなかったらそこでその活動は終わってしまうので、ここは一番大事なところだと思っています。

あと、先程佐藤政悦委員からお話があった行政区長会の集まりに私も参加していたんですが、構成する大半が団地部の行政区長なので、農村部の活動や状況があまり知られていなくて。農村部の方も色々な活動をされているんですが、団地部だけがどうしても中心になってしまっている。やはり情報発信が重要となってくると思います。

#### (佐々木会長)

3項目目の整理については、タイトルはこのままだとしても、基本的には市民と市が一緒になってやることに絞りましょうという話で。特に輪づくりというのは、やはりキーワードとして、輪づくりをするために何が必要なのかということに落とし込んでいくべきだという話だと思います。凄く良いヒントだったと思います。

#### (増田委員)

「輪づくり」ってとても良い言葉だと思います。

### (佐々木会長)

場をつくる、スペースは置いておきますので後は自由に使っていってくださいと言うと若干無責任なところがあるんですが、そうではなくて、富谷は輪づくりをしましょうということに強調して行って、その輪づくりをするためにはこういうものが必要だということに集約して良いのではないかと、聞いていて思いました。

この具体的な、ちらしやホームページとか、そういったものは市民と市の方に振り分けてもらって良いと思います。

「輪づくり」というのは村上委員からいただいた言葉だと思いますが、ここに委員の皆さんの理解が集約されてきた感じがします。

### (村上委員)

輪づくりのためにはやはり出会いだと思います。出会いから始まってつながっていくというのが一番自然な流れであって、そういう場を今、市民協働課さんもつくっているじゃないですか。そこに市民が集って、そこでの出会いをどう次につなげていくか、そこで終わりにならないような。

資料2を見ても、人と人との出会い、つながりがなくて次に進めないでいる人が沢山いるのではないかなと感じました。

### (佐藤政悦委員)

個人間でのつながりに併せて、市役所内での課同士のつながりというのも更に必要なのかと思います。

### (村上委員)

そうですね、複数の課にまたがるような内容のときにどこの課に行けばいいのかわからないことがあって。

市民同士のつながりも必要ですが、その土台となる市のつながりも見えると良いのかなと思います。

### (佐々木会長)

これが1番日本の中間支援の難しいところで、日本と海外では公務員のシステムが少し違って、例えばアメリカなどでは区長がボランティアのような感じなんです。なので、どちらかと言うと日本の場合は行政システムで中間支援をやるのが苦手です。であるので、民間に頼みましょうということで進めてきたんです。

協働もよく庁内、町内という言葉を使うんですが、行政内部の協働というのは日本全国どの自治体にとっても難しいことですよね。行政の縦割りという部分はもう否めないところもあって。そういう中ででも村上委員の発言にありました通り、土台になる市役所内の支援体制の協働をどうするかというのは必要になってくることですので、「市が取り組むこと」1文追加されると良いと思います。どうしても、担当間の論理を出してしまうと止まってしまうことがいっぱいあるんです。そこが一番難しいところなんですが、何か文言を入れていくと良いと思います。

それと、今の村上委員の話にもありましたが、「整備の実現を目指すこと」というのは分かりにくい気もしますので、これをそのまま置いておくとしても、サブタイトルで「富谷の輪づくりを進めるために」とか、「富谷らしい輪づくりのためには」のように、「輪づくり」という言葉を入れても良いと思います。

### （佐藤政悦委員）

「輪づくり」というキーワードが入ることによって、それこそ住みよいまち富谷という部分が良く出てくるのではないかと思います。今までだとどうしてもこの団地部と農村部で離れた部分があったんですが、それが輪づくりの中で1つになって、一緒に富谷を更に良くしていこうという話になってくるのかなと思います。

### （日諸委員）

村上委員が「出会い」という言葉を挙げられていましたが、やはり出会いが大事で、出会いがあって交流が生まれて対話があって、と広がっていく。それが輪づくりになって最後にはそこがまた居場所になり、協働の機会というところにもつながっていくんだと思います。輪づくりから居場所が生まれて、「富谷が第二の実家です」と思ってもらえるようなまちづくりにつながっていくのではないかと思います。

### （増田委員）

今、日諸委員が仰った言葉が凄く良いと思って、出会いが対話を生んで、対話が輪づくりにつながり、そしてそこが居場所、ふるさとになる。その図を打ち出すと道のりが見えてくるような気がします。

### （佐々木会長）

今、大体皆さんが思っていることは出し切っていた気がします。図も市が土台になる形になっていますが、是非輪にしてもらって。土台づくりではあるのですが、市も輪の一部だということを描いて、図でも輪づくりが伝わるようにしましょう。

市民力を向上していくということが縦軸になるという話をしましたが、その縦軸の具体的な内容、日諸委員が仰った、出会いがあって交流が生まれて対話があって居場所になっていく。第二、第三のふるさとのようなものにもなっていくという画がつけれるのではないかと思いますし、佐藤政悦委員からも「輪づくり」というのをどんと出して良いのではないかという意見がありましたので、場合によってはタイトルに入れても良いかもしれません。「富谷らしい輪づくりを創造しよう」ということを入れていくと、これが1つの串が刺さったような形になると思います。そして、輪づくりをするために全てが整ってくるということになるかと思います。

なかなかこの部分というのは、やはり行政に委ねるだけでは難しい部分だということのを皆さんも実感していると思いますが、日本もNPOを推進していく平成の過程で、行政も努力してきた部分はあるわけですが、やはり民間に頼んで進めていくというのが日本のスタイルだったんですね。それはそれで日本らしい文化ができていると思うんですが、もう少し融合していくような部分もつくっていくということは、時間が掛かることだとは思いますが、是非そこにも今回踏み込んで、「市が取り組むところ」に一文でも、入れていただくと良いと思います。

事務局の方で視察に行ったりもしているという話がありましたが、本当は海外視察などもしていただきたいんですがそれは難しいので、行きやすいところ、例えば仙台市の市民活動サポートセンターなどに出向いて情報を拾っていただいているというのは、大変嬉しいことだと思います。実は、仙台市のそのサポートセンターをリニューアルした際、私も関わっておりまして。行政に相談してNPOを増やしていくという流れから、人々が連携してつながり、そこから自然に活動が生まれていくような環境をつくるときに、やはりその当時の相談所のような施設の雰囲気は違うのではないかとということでリニューアルしたのですが、結果として、今そうやって評価されていると思います。そして事例集づくりをし、見える化を図っていったんですね。それが県内のみならず全国にも広まってきましたので、富谷も「輪づくり」というものを打ち

出すと、他が模範とするような富谷の協働が出来上がっていくと思いますし、やはり可視化することが大事ですので、是非そこを一緒にやっていければと思います。

そして、「市が取り組むこと」の文言については無理のない範囲で入れていただいて、この「輪づくり」の中で行政機能が遠くならないように、むしろ寄り添っていけるようにしていただければと思います。

#### （佐藤怜美委員）

私も普段相談業務をやっています、会長が仰った、何かしたいと思っている人を「相談に来た人」と捉えるのではなくて、富谷と一緒に良くしていこうとしている仲間だと捉えることが必要だ、という言葉にハッとさせられました。日々、人と人をつなげるということを意識しながらやっていますが、そのためにはまず出会いというものが一番最初にあるんだなということを村上委員のお話を聞いて思いました。「気軽に参加できる機会の創出」とありますが、これがまさに出会いの場の創出になるのかと思いますので、「輪づくり」という文言は、「整備の実現を目指すこと」と、タイトルの部分にそのまま入れると良いのかなと思います。そこから、活動に参加してそこで終わりにならないように、その後どう対話してつながっていくかというところが図で分かりやすく表現されると、より多くの人に具体的に、実感をもっていただけるのではないかと思います。

あとは多様なセクターというのが、パッと見てどこまで色々な方に伝わるのかということも少し感じたので、誰しもがわかるように何か注釈を入れるか、括弧書きで説明しても良いのかなと個人的に思いました。

#### （佐伯委員）

本当にその通りだなと思って、皆さんのお話を聞いておりました。

日諸委員も仰っていましたが、資料1の波線が書かれている3行が、資料をいただいたときから良いなと感じていて。その下の「整備の実現を目指すこと」を「市民が取り組むこと」、「市が取り組むこと」と項目立てされているところにそれぞれ分けて入れていくと、富谷らしい、やさしい雰囲気です市民の方が見たときにとっても良いなと感じてもらえるものになるのかなとを思いました。

「輪づくり」という言葉もとても素敵だなと思って、出会いが対話を生んで輪づくりになっていくというお話が心に響きました。

#### （佐々木会長）

すごく気持ちのこもった整理だと思います。佐伯委員も心に響いたと仰いましたが、出会いから対話が生まれてそれが輪づくりになる、確かにそうなんですよね。波線の部分も良い言葉で、何のために輪づくりをするのかというところの3つに結構集約されているので、やはり「輪づくり」はタイトルに入れた方が良いかと思います。そして、その下の「整備の実現を目指すこと」については、こんなに強調する必要はないのかもかもしれませんね。

それと中間支援というのはずっと議論に出ていますし、私も中間支援に関する本を出版しているので相談されることは多いのですが、相談を受けるって少し重たいんですよね。そういう意味ではまず、富谷の市民協働に関する中間支援はこの「輪づくり」がゴールだということをも明確にすると、例えば今後相談を受けるコーディネーターのような方が富谷で出てきたとき、楽になると思うんですよね。やはり楽しい輪をつくった方が良いと思いますので、その辺は少し整理してあげると、支援する人の負担にならないかと思います。

ということで、かなり良いものになってきたと思いますし、今の話を盛り込みつつ、少し内容の並べ換えをすると、富谷らしいものが出てくるんじゃないかなと感じます。

整理しますと、「輪づくり」ということに焦点を置き、タイトルなどにも入れてしまって、波線になっているところはもう少し強調したいと思います。また、「市民が取り組むこと」、「市が取り組むこと」、「協働して取り組むこと」の部分は図を上手く打ち出しながら、特に「協働して取り組むこと」の中に、「輪づくり」をするためには具体的にどうすればいいのかということに絞ったものを入れながら、整理していければ良いかと思います。

そして、「市が取り組むこと」の中に、やはり市が半歩踏み込んで、「輪づくり」の土台になるためには市はどうすれば良いのかということ、他の自治体は参考にしなくていいので、富谷市らしい言葉で書いていただけると良いと思います。

### (増田委員)

先程出会いの場があってもなかなかその先につながらないという話が出ましたが、私も今まで色んなことをやってきて思うのは、これが大事っていう熱い思いがあって、それに共鳴する人たちが結局集まってくると思うんです。こういうのをやってみたいんだよねという段階の、まだあまり自分の気持ちが固まっていない人に言っても、結局「だから？」って言って終わってしまうので、「協働して取り組むこと」の部分に、どういうまち、富谷にしたいのかという明確なビジョンがあって、熱い思いを持っている人が語って、それに共感した人がこのお手伝いができるよ、となるような場があると良いと思います。やはり、最終的に形になるのは熱い思いだと思うので、こういうものに盛り込むのは難しいと思うのですが、これまで色んな活動をやってみて、それなしには結局何にもならないというのが私の結論なんです。熱い思いや夢がないとその先に重なっていかなくて、どんなに形を整えても、絵にかいた餅になってしまうと思うので、それを「輪づくり」につなげられるような形で何か表現できると良いなと思いました。

例えば、佐藤政悦委員が農村部の大変さについてお話しされていましたが、若者が東京に就職しに行って、何度も転職を繰り返して、結局地元の地域づくりに自分の居場所を生み出したって話を結構聞くんです。それは富谷でも十分起こり得る話だと思うんです。けれど、そういう思いを持って若者たちだけが集まっても、まだ未熟だから上手くいかなくて終わってしまう。そこに、色々な活動をこれまでできて、アドバイスできる人が1人いるだけで、対立していたものが輪になっていくということがあると思うので、夢やビジョンということと、やはり経験値のある人、これが凄く重要なキーワードになってくると思います。私がこれまで色々な活動をしてきて感じるのは、こういったことです。

### (佐藤政悦委員)

肥料や農薬、機械も高騰して、とても採算が取れない状況になっているので、周囲でも農家から離れていく人がもうほとんどになってきています。そこでずっとやってきた人位しかやれる人がいなくなっている中で、都会に出て色んな仕事をしながらも、田舎でやりたいという思いを持っている人をいかに取り込んでいくかとなったときに、そこで生きてくるのが輪づくりだと思います。

やはりせつかく良い土地があるので、富谷で何か作りたいなという思いはあるんですが、私1人はどうにもならないので、そこ止まりなんですけれども。そういったところに輪ができれば、やれることは沢山あると思うんですよね。

### (佐々木会長)

出会い、交流、対話、居場所というフレームの中に、何か実行みたいなのが入ってくると、それが結果として商売も含めて、持続的になるのかなと思って伺っておりました。富谷でそういった色んな輪ができていくということは強みですし、佐藤政悦委員は生産から販売まで

全てやられています、なかなかそれ全部はできないという人もいますので、例えばこの生産の輪があったり、加工の輪、販売の輪があったりということでも成り立つのかなと思って聞いておりました。

そういう意味では、少し協働にはそぐわない話かもしれないんですけど、やはりビジネスのベース、ビジネスモデルを作るときに、ミッションとかビジョンと言うんですね。ビジョンは目的なんです、ただそれだけでは弱いので、ミッション、ビジョンの上にフィロソフィー、経営哲学があるんです。こういった言葉を使うとビジネス寄りになってしまうんですけど、市民活動においても何かやりたいという人を支援するとき、それを整理してあげるの、それは凄く大事だと思います。企業支援では必ず最初にそこを整理するんですけど、NPOをつくらうとしたときも、一番最初にすべきことはミッションをつくることだと言われてたりします。ただ、ミッションというとなんとなく漠然としてしまって、こういう社会をつくるとか、カッコいい文言にはなるんですけど、それだけだと実際何も動かなくて。その上段にある熱い思い、フィロソフィーを市民協働で「輪づくり」をするときには、きちんと言語化していくということが大事なんだと思います。

では、残り20分位ありますので、詰め切れていないところの議論をできるかと思います。

「市民が取り組むこと」、「協働して取り組むこと」は大体詰められてきて、基本的には富谷で必要とされているのは「輪づくり」だということで、そこに注力していくんですけど、「市が取り組むこと」もそれに紐づいたもので良いと思うんですね。

富谷市で行っている助成金制度は何かありましたでしょうか。

#### (事務局 坂爪課長)

市民協働課で準備しているものは特段はありませんが、社会福祉協議会の方で行っているものがございます。

#### (佐々木会長)

私自身は特段助成金がない現状でこれだけでできているのであれば、むしろ助成金ありきだけにしないほうが良いと思っていますが、委員の皆さんより「市が取り組むこと」についてご意見いただけることはありますでしょうか。

#### (増田委員)

今、既にあるものも十分活用しきれていない、活用の仕方がわからないというところなので施設を新たに作るということは、私は入れなくて良いと思います。まずはほとんど活用されていない施設があるという状況を、もっと活性化させることの方が大事だと思うので、新たな、というのは入れなくて良いと思います。

それから、活動助成金をつくるというのもまだ今の段階ではいいと思うんですけど、私があるといいなと思うのは、金額は少ないけれど使い道が自由で便利でしたとか、競争率は高いけれど沢山もらえますとか、そういう情報が市民活動をしていく中で欲しいのかなと思います。申請すればもらえると思っていたら凄く倍率だったとか、色々あると思うので、実際に助成金をいただいて活動してる人たちに、使いやすかったものとかありがたかったもの、あるいはその後の報告が大変だったものとか、使ってみた利点など、そういった情報が集まると、何をやるかによって必要な助成金の種類は本当に違ってくるので、具体的な情報を把握していただくと、市民は使いやすくなるのかなという気がします。新たに市民協働課で助成金を作るとか、欲しいっていうのはまだ時期尚早な感じがしますので、あるものを有効に使えるデータベースのようなものが良いかと思います。

**(佐々木会長)**

助成金というのは、一番当初の市民協働の政策なんです。行政で持つのは重たいので、基本的には市民活動サポートセンターを作って、助成金を作るという形です。お金は用意しましたので、あとはやってくださいというのは20年前位前に始まった日本の市民活動の支援制度なので、むしろ今、助成金を出して終わりというのは特色のある活動につながってない持続性のある活動にもつながっていないとよく言われていますし、市が出すとかなり制約があるんですよ。報告であったり、で使い道もかなり難しいですし。

民間もどのようにうまく使っていくかというのはすごく大事ですし、そういう意味では社協の助成金は各地で有効に機能してますし、北野澤委員が所属されてました会社の助成金制度も私が委員長やっております、そういう民間のですね、助成金もうまく使っていくというのがいいのかなと思います。

事務局におかれては、本日委員の皆さまから頂戴した意見を十分に考慮し、具体的な支援についてとりまとめていただければと思います。

それでは進行を事務局にお返しします。

**(事務局 坂爪課長)**

佐々木会長、委員の皆様、長時間のご審議ありがとうございました。

5. その他といたしまして事務局から連絡がございます。

**(事務局 瀧田課長補佐)**

本日の審議会の会議録につきまして内容のご確認を今後お願いすることとなりますのでご承知いただきたいと思っております。

また、次回、第5回審議会につきましては2月中旬に開催を予定しております。後日改めて開催の通知を郵送申し上げますのでよろしく願いいたします。

事務局からの連絡事項は以上となります。

**(事務局 坂爪課長)**

それでは閉会のあいさつを平岡会長職務代理者をお願いいたします。

**(平岡会長職務代理者)**

本日もたくさんの意見を出していただき、皆さんありがとうございました。

輪づくりが地域で大切にされ、そしてその輪が市全体へ広がっていくような環境が出来上がって行けばと感じております。

インフルエンザの流行もまだ収まっていませんが、皆さんお体に気をつけて、良い正月をお迎えください。

本日はありがとうございました。

**(事務局 坂爪課長)**

以上をもちまして、令和5年度第4回富谷市協働のまちづくり推進審議会を終了させていただきます。本日は大変お疲れ様でした。